

第4学年 国語科学習指導案

日時 平成16年9月17日(金) 5校時
児童 女子2名 計2名
授業者 板垣厚子

1 単元名 伝えたいことをはっきりさせて書こう (光村図書 小学校国語 4年上)

2 教材名 無人島でくらすとしたら

3 教材について

(1) 教材について

本教材は、「無人島でくらすとしたら」というテーマで、それぞれが自分のやりたいことを実現するために、必要な物の優先順位を話し合っ決めて決めることを目標としている。教材の展開は、ゲーム的なおもしろさがあるので、話し合う活動が多少苦手であっても取り組みやすい内容となっている。無人島で一週間暮らさなければならないのに、グループで持っていけるものはたったの7つという条件の中で、他に比べて自分の提案のよい点を示したり、友達の提案をその根拠を基に判断したりする活動を必要とされる。その活動を通して、「話すこと・聞くこと」の基本的な力を楽しみながら身につけさせることができると思われる。

(2) 児童について

4年生の二人の児童は、明るく活発で、学校生活の中では進んでいろいろな活動に参加している。しかし、学級や全校の人数が少ないことや話をする必要性が低いという環境から、相手によりよく伝えようという意識が十分とは言えず、日常生活の中で使う語彙も少ない。

4年生になってから児童は、「友だちっていいな」では、写真を見て友だちについて考えたことを互いに発表し合い、相違点や共通点を考えながら話し合うことを学習した。また、同単元の「こんなことしたいな」では、自分たちの日常生活の中から話題を見つけ、学級や全校の場でスピーチすることを学習し、それを今でも継続して行っている。その中で児童は、自分の思いや考えを話して伝えようと意識したり、分からない言葉を聞き返したりするようになってきている。

M・K 理解力はとても高く、話の内容も正確に聞き取ることができる。しかし、自分の考えを話したり工夫して文を書いたりすることは、苦手である。

Y・M 自分の考えや見聞きしたことを話すことが、比較的好きである。しかし、その内容を整理して話そうとしているわけではない。自分の思いのまま文を書くことは好きであるが、目的を持って文を書いたり整理してメモを作成したりすることは、苦手である。

(3) 授業にあたって

本教材を学習するにおいては、友だちや先生に、自分なりの理由をあげて自分の考えを説明し納得させるとともに、相手の考えもその根拠を理解しながら聞き、自分の考えと比較していくという活動を行わせていきたい。そこで、児童の想像力を十分に引き出すために、本単元に入る前に、読書やビデオ鑑賞などを行い、冒険物語への関心を高めておきたい。

第1時では、教科書の付属のCDを使ったり教科書の挿絵の拡大図を作成して、学習への楽しさを味わわせたい。第2時では十分時間を取りながら、自分が無人島で一週間暮らす様子を想像させ、自分にとって必要な物を考えさせる。その上で、自分の提案を相手に納得させる根拠を整理させていきたい。第3時では、授業者も入って無人島での暮らしの自分の考えを発表したり他の考えと比較して見つめ直すことで、自分の考えの視点を広げることができるよう話し合いを進めさせたい。その際、自分の考えを単に取り消したりむやみに主張したりすることがないように、話し合いを支援していきたい。各時とも、ゲーム的なおもしろさを生かしながら、本教材でねらう「話すこと・聞くこと」の基本的な力を身につけさせる場としていきたい。

4 少人数指導に関わって

単学級で二人という少人数なので、児童だけではあまり学習の広がりが見られない。そこで、授業の中に児童とともに授業者もグループの一員として参加し、児童の考えを更に広げたり話し合いの型を理解させたりしていきたい。

5 教材の目標

無人島での一週間の生活を考え、必要な物を進んで話し合おうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
それぞれが無人島でやりたいことを実現するために、必要なものの優先順位を話し合うことができる。

(話す・聞く ウ)

無人島の一週間を想像して、自分が必要だと考える根拠を明らかにしてやりたい遊びや暮らしを分かりやすく相手に話すことができる。

(話す・聞く ア)

友だちの提案の根拠を聞いて、必要な物を判断することができる。

(話す・聞く イ)

その場の状況や、目的に応じた聞き取りやすい音量や速さで話すことができる。

(言語事項 ア(ア))

時	主な学習活動	評価規準
1	「無人島でくらすとしたら」という題名に興味をもち、地図上の地名を名付け理由を発表し合いながら、島のイメージをふくらませる。	自分の体験やいろいろな冒険物語を思い出しながら、無人島での暮らしに興味をもっている。
2	無人島で一週間過ごす計画と持ち物を一人一人考える。	無人島に行くことを想像して、持っていく物を楽しく考え、相手に提案するためにその内容を整理してまとめている。
3	グループで持っていく7つの品物を、話し合っ決めて。	自分の提案を根拠を明確にして、自分が必要だと思う物を分かりやすく話している。 互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞き、意見をまとめる方向で進んで話し合っている。
発展	グループで話し合ったことをスピーチ集会で発表し、感想や質問を求める。	友だちの質問に対して、根拠をはっきりさせて答えている。 友だちの質問や感想から、これからの話し合いで気を付けることを考えている。

7 本時の指導

(1) 目標

グループで持っていく物を決めるために、互いの考えを出し合いながら進んで話し合おうとする。
(国語への関心・意欲・態度)

自分の考えの根拠を明確にして分かりやすく話すことができる。(話す)

互いの考えの共通点や相違点を考えながら、話し合うことができる。

(話す・聞く)

グループの友達に聞こえるような音量や速さで話している。(言語事項)

(2) 評価規準

- 自分の考えの根拠を明確にして、自分が必要だと思う物を分かりやすく話している。
- 互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞き、意見をまとめる方向で進んで話し合っている。

(3) 基礎・基本

- 考えの根拠を明確にし、筋道を立てて話をすること
- 互いの考えの共通点や相違点を考えて、話し合うこと

(4) 展開

段階	学習活動	教師の支援 具体的評価規準
導入 5分	1 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">無人島に持っていく7つの品物を話し合おう。</div>	教師の支援と具体的評価規準 前時を想起させながら自分の提案を確認させる。
展	2 各自が考えたことを順に発表する。	提案の根拠を明確にししながら、前時にまとめた紙板書をもとに聞く側に分かりやすく発表することを確認する。 授業者から発表をし、発表の仕方を再確認させる。 発表したことには質問を受け、相手に自分の意図を明確に伝えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分の考えの根拠を明確にして、自分が必要だと思う物を分かりやすく話している。 ができたか。 A 根拠を明確にししながら、必要な物を優先順位を考慮して発表することができる。 B 根拠を明確にししながら、必要だと思う物を発表することができる。 Cへの支援 発表の間に授業者が質問の形で助言を加える。</div>

開 分	3 グループで話し合う時の注意点を確認する。	教科書P51の学習の窓「意見をまとめる時の話し合い」を提示し、確認させる。
	4 品物を7つ選ぶにあたり、具体的にどのような観点で話し合いをすればいいのか確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・共通している品物はないか。 ・現地でその代わりになるものはないか。 ・無いと困る物なのか。 ・あるとみんなが便利な物なのか。 ・認められる個人的な物なのか。 </div>	C Dを聞き、話し合いの観点を確認させる。
35 分	5 話し合いをする。	前時にまとめた紙板書をもとに発表したり相手の意見を確認したりして、話し合いを進めさせる。 司会の児童には、話し合いの観点到に沿った進め方のメモを与え、安心して進行できるようにさせる。
	6 話し合って決まったことを、島の全体図に書き入れる。	互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞き、意見をまとめる方向で進んで話し合っている。 A 具体的な理由をあげて相手が納得できるように話したり他の意見を比べたりして、自分だけでなく、みんなにとってより有効な持ち物をとらえるように考えながら話し合っている。 B 互いの共通点や自分との相違点が分かり、全体をまとめる方向で話し合っている。 Cへの支援 話し合いの中で、互いの意見の共通点や相違点を共に確認してあげながら、再度自分の考えと照らし合わせて考えられるよう支援する。
終 末	7 本時を振り返り、まとめをする。	決定したことで更に楽しく想像がふくらむように、授業者の方で挿絵を用意する。
5 分	8 次時の予告を聞く。	話し合った無人島での暮らしを、全校スピーチ集会で発表することを伝え、発表に対する意欲をもたせる。